寺田縄豆記者 見学　第１回　　「平塚市埋蔵文化財調査事務所」　　（２０１５．８）

寺田縄子ども育成会が呼びかけた「寺田縄豆記者」の初めての活動は、金田小学校の高橋さん（６年生）と石原さん（５年生）の二人が、寺田縄にある「平塚市埋蔵文化財調査事務所」を見学しました。

「寺田縄豆記者」とは、寺田縄で仕事をしている事業所や会社、農家さんなどを見学して、仕事の内容など、聞いた事ことをまとめ、「寺田縄情報局」のＨＰで報告する活動を行います。

寺田縄の町の様子、仕事をする人たちの様子など、訪問し言葉を交わすことによって、人々との交流の輪を広げ、深め、社会性を向上させ豆記者の成長の手助けができればと活動を続けます。

夏休みの８月１２日（水）、お母さんと豆記者担当の片山の四人で事務所を見学しました。

場所は「えのしろ公園」と道路を挟んだ所にあります。

平成１９年、小鍋島の旧城島公民館わきの事務所から移転して、独立した事務所を構えています。

この日は、菅沼さん、川端さんのお二人が建物の中の案内や仕事の内容を説明してくださいました。

この部屋には、発掘された沢山の土器の破片（ピース）が並べてありました。

□ **菅沼さん**「平塚市内には、土器などが発掘される遺跡（イセキ）が３００か所ぐらいあります」と地図で示してくれました。「遺跡の多いところは中原、真田、岡崎などです」

◎ 高橋さん『中原に多いのはなぜですか』

□ 菅沼さん「寺田縄より東の相模川方面の大野地区、四宮地区には奈良時代、平安時代の遺跡が多く、その時代に相模国（ほぼ今の神奈川県）の役所（国府・コクフ）が置かれ、沢山の人々が住んでいたので、その人たちが使った用具などが沢山出土します」

◎ 石原さん『そこはにぎやかな所だったのですね』

■　仕事の手順を教わりました。

① 出土した土器の破片を水洗いする。
② 全ての破片の内側に出土地点の番号を記入する。
③ 破片を組み合わせ、接着剤でつなぎ合わせます。
（何百もある破片を元の形にするのには根気が必要です）
④ 完成した土器を写真撮影します。
⑤ 土器の形や模様を手作業で正確に書き取ります。
⑥ 土器の模様を「拓本（タクホン）」という方法で写し取ります。
⑦ ⑤、⑥の図をパソコンに取り込みます。
⑧ ⑦の図面や出土した土器と場所（遺跡）を報告書にまとめます。

■　今日は「仕事の手順」の主な作業を見学し、説明してもらいました。

こんなに沢山の土器片です。手前には、部分的に組み合わされ、形がわかるような土器が置かれています。

②、③ の作業：

水洗いし、乾燥させた土器片に、筆を使って土器片の裏側や内側に、白色で小さく番号を書きます。

◎ 高橋さん≪同じ色、同じような破片がかごに入れてあり、組み合わされた破片を接着剤で付けていきます。２個ぐらいの破片では接着剤でつけてはだめだそうです≫

◎ 石原さん『どうして組み合わせが分かるのですか』、『一つを完成させるのに何日かかりますか』

□ 菅沼さん「完成された形を想像しながら、考えて組み合わせていきます。破片がそろっていれば一週間ぐらい、でもそんなに早くできることは少ないです。また、何千もの破片から一割ぐらいしかつなげません」

◎ 高橋さん≪破片から大体の形を予想できるそうです≫、≪土器などの破片が事務所に持ち込まれることもあると聞き、驚きました≫

組み合わせの途中の土器が仕分けされていました。
完成に近い土器、まだまだほど遠い土器。いろいろです。
組み合わさる仲間を待っているようです。

お母さんの見守りを受け、私たちも組み合わせに挑戦しました。
すでに仕分けされた土器片でも組み合わせは難しい。

本当に難しく、根気のいる作業です。それだけに、完成した時の喜びは・・・　　想像できます。

完成した土器「壺（ツボ）」です。破片の組み合わせがよく見えます。白い部分は「石こう」で補修してあります。破片が見つかりませんでした。

作業してきた人たちの苦労がよくわかります。今度、土器を見たり触れたとき、作業の大変さを思い出すことができます。

完成形から使われていた時代、用途、製作の技術などが分かるそうです。

普段は博物館のガラスの中に展示される土器を持たせてもらいました。

◎ 石原さん≪少し重たい土器、軽い土器。いろいろありました≫、≪土器の焼き方の違いで色が違ったりするそうです≫、≪土器はいろいろな粘土で作られています≫

二人とも神妙です。
落として割れないか心配で、恐る恐る、手にしていました。

土器を持つなど、なかなかできない経験でした。

□ **川端さん**「この土器には文字が書いてある」、「こちらには人の顔が描いてある」、「文字は、春、井、郡、八など。飛ぶ鳥の絵もありますよ」、「これらは墨書（ボクショ）土器と云い、人の顔が描かれるのは珍しい」

◎ **二人とも≪びっくりです≫**

今の私たちが読んでわかる、見てわかるのは、歴史が昔から続いているからだと思います。

④ の作業： 完成した土器を写真撮影します。

スタジオがありました。
“完成した土器”のスターが登場しスポットライトをあびます。
写真撮影により視覚的な資料として後世に残します。デジタルだけでなくフィルム撮影としても記録に残します。

⑤、⑥の作業：

土器の形を正確に書き取り(実測図)、模様を「拓本」という方法で 写し取ります。

□ **菅沼さん**「左は土器の表面の模様、右は土器の内側と厚さを忠実に描きます」、「見た通り、この土器は大型です」

（拓本は方法を教わりましたが、見ませんでした）

⑦の作業：

⑤、⑥で作成した土器の図をパソコンに取り込みます。

実測図、拓本図などをパソコンに取り込み記録します。

このような作業を通して、最終的には、遺跡、遺構の調査報告書としてまとめられます。

完成された土器は大切に保管され、博物館に展示されることもあります。

今日見た土器も博物館に展示されるのかな？　楽しみです。

同じ部屋で、職員の中嶋さんが平塚市中央図書館での展示準備をしていました。手にされているのは、約２千年前の平塚市指定の文化財、弥生土器です。

ここ、調査事務所は土器の復元だけでなく、展示会などを企画し、平塚市民への埋蔵文化財の普及啓発活動もしています。

◎ 高橋さん≪優れものの道具を紹介してくれました≫

キャリパー

◎ 石原さん≪土器の厚さを測るものです≫

マコ（真孤）

◎ 高橋さん≪土器の形を写し取るものです≫

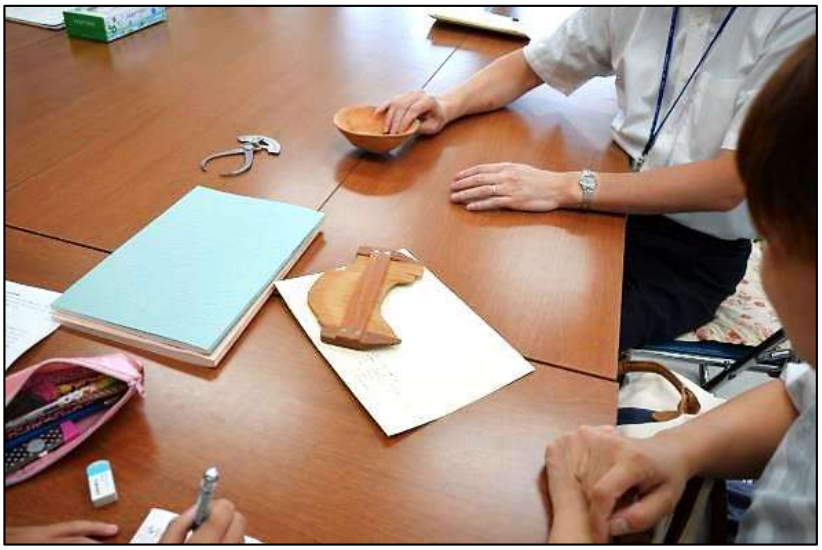
◎ 石原さん≪竹でできていて、土器にくっつけて形を測りほかの紙に写し取るときに使います≫

キャリパー

□ **菅沼さん**「壺（ツボ）の中に差し入れて、いろいろな場所の厚さを調べ、記録します」「口が狭く、普通では測れない場所を調べることができます」

マコ（真孤）

□ **菅沼さん**「土器の表面に当てると並んだ竹の櫛がそのカーブを映し出します」、「下の写真を見てください。土器のカーブが見えますよね」



いずれの道具も土器を測定し、記録するのになくてはならないものです。

終わりのミーティング。

沢山見学させてもらいました。寺田縄にこのような仕事をされている方々がおいでになるとは、知りませんでした。土器のこともいろいろわかり訪問してよかったと思います。

■　他にも教えていただきました。

・土器には、壺、鉢、かめ、皿など使い方によっていろいろある。

◎ 石原さん≪かめは、一家族１０個ぐらい掘り出されることもある≫

・古代人の食事のメニューが貼ってありました。食事の回数は一日、２食だったようです。

◎ 石原さん≪３品が一般的で、豊かな人たちの特別なメニューは１３品になることもあったようです≫
≪それでは、あまりにも差がありすぎる…≫

◎ 高橋さん 石原さん≪発掘には、職員が４～５人のチームで担当し≫他の人たちも加わります。

◎ 石原さん≪平塚では、年に３～４回発掘に出かけます≫

□ 菅沼さん「土器は土の中にあって、下のほうが古い。年代をさかのぼって掘ることになります」
「掘るときは、何がどれくらい出るかわからないので、楽しみです」

◎ お母さん≪このような仕事をするにはどうすればよいのでしょうか≫

□ 菅沼さん「私たちは、平塚市の職員で、学芸員の資格を持っています。大学で資格を取り、市の採用試験に合格し、この仕事についています」

（注）

『　』:　高橋さん 石原さんの質問です。

≪　≫:　高橋さん 石原さんの教わった事柄の記録です。

（後記）

初めての活動で戸惑ったことも多かったようですが、活動にすすんで参加したことは称賛に値し、とても良いことです。ご苦労様でした。　回を重ねるごとに勇気と自信が出てきます。

次回も寺田縄のどこかを見学し、報告いたします。